

設立趣旨書

奥日向に位置し、照葉樹林の山峽にある東米良地区(旧東米良村)は、宮崎県西都市の山間部にあり現在人口240数名、高齢化率60%台の限界集落である。今や消滅するかもしれない地域である。しかしながら、東米良地区には縄文時代の遺跡があることから古くから人との関わりがみられ、この地域の各地で奉納される神楽でも分かるように山岳信仰と深く関わり、現在も神事と生活が密接につながっている。また聳え立つ山々は隠れの里として菊池一族や西郷隆盛などとも関わりの深い場所でもある。

また、この東米良地区は第二次世界大戦中、疎開をしていた人を含めると6000人に近くの住民がいたそうである。その住民の食料を賄えるほど地域資源が豊富な恵まれた地域でもある。

もう一つ、この地域の特徴がある。それは教育熱心なことである。先祖代々この地域の教育の考え方は文武両道で、心技体を鍛え、優秀な子どもには山を売ってでも教育しなさいと聞いている。

このようなことから、当団体は下記の3つの柱を基本とし、「1000年続く村 東米良創生プロジェクト 循環型山村づくり」の事業を実施していくものとする。

① 教育の推進、充実

27年前から銀鏡地区では、小中学生の山村留学が行われ実績もある。

人は人間である前に動物であるという観点からみると自然豊富な環境の中で、育て教える(教育)ことが理にかなっている。文武両道の精神で積極的に教育に関わっていく。

② 伝統文化の継承

東米良地区で継承されている銀鏡神楽は県内で最初の国の重要無形民俗文化財に指定されている。尾八重神楽は宮崎県指定無形民俗文化財である。中尾棒踊は西都市無形民俗文化財である。このように先祖代々継承されているこの文化を今後も継承し続ける方法を模索し、現在の課題を解決していく。

③ 地場産業の発展および新規事業の開拓と誘致

地の利を生かした地場産業の発展と現代のIT関連の事業の融合を推進することにより、この東米良地区での雇用の充実を図り、生活環境整備も合わせ人口増加を目指す。

近年、大都市に人口が集中する中で、国策として地域創生を進めることになった。その中で中山間地域の活性化も叫ばれるようになり、西都市は全域が中山間地域に相当する。川や海を守るためには山を守るべきとの常識もあり、東米良地区の創生は平野部の西都市街地の環境維持に寄与し、西都市全体を発展させるものとする。また、この地域課題は日本国内の中山間地が同様に抱えるものであり、この課題解決を行うことは広域な課題に取り組むことと同様と考える。

東米良地区の創生を目指し、永続的にこの東米良地区の山村が保全され発展するために事業を実施していくことを当団体の設立の目的とする。

令和2年5月27日

特定非営利活動法人東米良創生会

設立代表者 濱 砂 重 仁